

令和3年度 第9回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和3年12月16日(木) 17:00～18:15

【場 所】 厚田保健センター多目的ホール

【出席者】 9人(15人中)

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	渡邊 教門	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
副会長	東 幸子		委員	小山 玲子		委員	丸山 真嗣典	○
委員	石田 靖子	○	委員	今 光江		委員	村本 龍一	○
委員	大内 さつき	○	委員	笹谷 清一	○	委員	森田 瞳	
委員	加藤 亞弓		委員	角野 亮太		委員	八木沼 英晃	○

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企 画 経 済 部 ～芳賀主査

厚 田 支 所 ～東支所長、吉田根副課長、親田生雄課長

地域おこし協力隊 ～飯塚隊員、奥本隊員

事務局(地域振興課) ～高田課長、佐藤主査、寺尾主査

【傍聴者】 2名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長挨拶
 3. 情報交換会(リラックスタイム)
 4. 協議事項
 - (1) 厚田区地域おこし協力隊の募集について
 - (2) 第9期厚田区地域協議会の運営について(継続協議2回目)
 5. 報告事項
 - (1) おためし地域おこし協力隊の開催・募集について
 - (2) その他
 6. その他
 7. 閉会

1. 開会

【（厚）地域振興課 高田課長】

開会の前に、本日、東副会長、加藤委員、小山委員、今委員、角野委員、森田委員が欠席、丸山委員、村本委員が若干遅れるという連絡を受けておりますので、ご報告させていただきます。

それでは令和3年度第9回厚田区地域協議会を開会いたします。会長ご挨拶お願いいたします。

2. 会長挨拶

【渡邊会長】

皆さんこんばんは。師走のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。私事ですが、12月一杯で厚田みよし園を退職することになりました。これまで35、6年勤務して参りましたが、地域の皆様にもいろいろとお世話になり本当にありがとうございました。1月からは若干暇になるのかなと思っています。今日は副会長も休んでしまい人数は少ないですが、皆様に活発なご意見を出していただければと思っておりますので、よろしくお願ひします。

では引き続きリラックスタイムに入ります。

3. 情報交換会（リラックスタイム）

【笹谷委員】

12月の初めに厚田学園からの依頼で、厚田の地元食材で子ども達とピザ作りをしました。生徒が考案した2種類のピザ、ちゃんちゃん焼きピザとサラカピーピザ、サラカピーというのはアイヌ語でホタテという意味ですが焼きあがったものを皆で試食し、評価が高かったサラカピーピザを来春道の駅で限定販売します。授業の一環ということで協力させていただきましたが、自分たちにとっても大変勉強になったと思います。

（笹谷委員は道の駅テナントのベーカリー&ピザホーム運営者）

【鎌田委員】

今年もイルミネーションをあつたクリニック前に飾りました。又常々道の駅にもほしいねという話をしています、今年何とか実現できました。先日集まれるメンバーで半日かけて設置しました。クリニック前の明かりと違い、見た人が心安らぐようなやさしい光になっていると思います。今日の帰りでも道の駅に寄って実物を見ていただければと思います。（鎌田委員はイルミネーションを飾る会会長）

【渡邊会長】

笹谷委員、鎌田委員ありがとうございました。リラックスタイムはこれで終了します。

※ここで丸山委員、村本委員が到着。

4. 協議事項

（1）厚田区地域おこし協力隊の募集について

資料1：石狩市地域おこし協力隊募集要項（案）及びおためし地域おこし協力隊募集チラシ

【渡邊会長】

では、厚田区地域おこし協力隊の募集についてお願ひします。報告事項の中で「おためし地域おこし協力隊」について説明となっておりますが、非常に関連する部分がありますので、協議事項の中で合わせて事務局からお願ひしたいと思います。

【（厚）地域振興課 寺尾主査】

本来であれば、活用検討委員会の渡邊委員長からということですが、たまたま委員長が渡邊会長ということで、今回は事務局からご提案させていただきます。

今年4月の地域協議会において、最大3年間の任期を終える前に退任した協力隊に代わる方を追加募集する前に、改めて協力隊の活動内容や募集の在り方を検証する必要があるというご意見をいただき、早速検討委員会を立ち上げ、計7回に亘り活動の検証や制度の活用について協議を重ねました。その中で今年度の追加募集は見送り時間をかけて地域が求める人材と活動内容を整理する、自由に活動する今までのフリーミッションだけでなく活動終了後の起業や就業など出口を意識して隊員の自立に繋がる具体的なことをテーマにする、着任後イメージした活動と違うというミスマッチが起こらないために事前に厚田に来てもらい、地域を見たり、知ったり、感じたり、という「おためし地域おこし協力隊プログラム」を厚田でやるのはどうかというご意見がありました。

お手元の資料1をご覧ください。今回配付している募集要項（案）は浜益区で募集する活動内容も一緒に記載されますが、浜益の部分は来月の地域協議会で決定する予定であり、今回厚田分のみのご提案になります。始めに来年度の募集人数ですが1名としております。これまでのフリーミッション型から具体的な活動テーマを設定するミッション型に方向性を変え、人数ありきではなく、新しいやり方で実績を積み上げて、改めて地域の皆さんと活動の検証、厚田に必要な協力隊の在り方や今後の展開を検討していこうという結論になりました。活動内容は特産加工品の継承としております。詳細は募集要項中程に記載しておりますが、道の駅の人気商品「たこ飯」や今年度で生産を終えてしまうJA北石狩女性部加工グループの「しそジュース」や「甘みそ」等の特産品のレシピやノウハウを継承し、任期終了後はそれらを活用して起業等を目指すとしています。「たこ飯」は製造販売をしている業者さんが、希望する人がいれば譲りたいという気持ちがあること、JA北女性部の商品は製造から販売まで区内で行っていますが、誰かが継承しないと商品自体が無くなってしまうことから、今回の募集テーマとしました。これに加えて今までどおり自由企画での応募も残していますが、あくまでも任期終了後の自立、起業や就業につながる活動をご提案いただき、本当に厚田区で実現可能かどうかをしっかりと判断していこうと考えています。よって、加工品作りの継承と自由企画のどちらかを選択し応募いただくというのが来年度の募集となります。今までの方向性とは変わりますが、厚田区に定住定着していただくには、任期終了後の起業就業といった自立が必要と考えており、支所も様々な形で応援したいと考えています。

なお地域行事への参加や連携して取り組みを行うこと、情報発信等は今まで同様、基本的な活動として今後も継続する方向です。この内容で承認いただければ、早ければ4月1日付の採用を目指して募集の手続きを進めて行きます。応募締切は令和4年2月28日まで、一次選考を経て2次選考、面接を令和4年3月9日に予定しております。以上が検討委員会からのご提案です。

合わせて、「おためし地域おこし協力隊」の説明をさせていただきます。本日お配りのチラシをご覧ください。実際には既に募集を開始しております。チラシのデザインは飯塚隊員がしたものです。このプログラムは近年応募が減っていることや着任後のミスマッチの解消、実際に応募される方が応募するかどうかの判断材料になればということで、厚田区としては初めて実施します。受け入れ期間は2月下旬頃までの2泊3日以内、人数は予算の範囲内として10人を上限にして、申し込みがあれば個別に希望する日程や厚田で見たいこと、聞きたいこと、会ってみたい人等を聞き取り、その人だけのオーダーメイド型のプログラムを作ります。現在SNSでの周知や東京石狩事務所を通じてチラシを配布しています。既に申し込みや問い合わせを多く受けており、思ったより希望者が多く驚いております。飯塚隊員がデザインしたホームページも良かったのではと思います。

では、ここから先は飯塚隊員からホームページを紹介してもらいますのでスクリーンをご覧ください。

【飯塚隊員】

※スクリーンを見ながらホームページを説明。資料無し

今回、チラシとホームページ両方作りました。協力隊のフェイスブックやSNSで「おためし協力隊」の募集

を周知し、詳しくはホームページを見てくださいとして、興味ある人がホームページを見てくれることを想定しています。最初に期間や内容、オーダーメイドプランであること、協力隊の説明をしています。厚田の魅力については、ホームページで文章を読む人はあまりいないと思うので、画像を中心に漁業と農業どちらも意外とやっていますよ、星空や夕日など景色をイメージできる写真を掲載しています。2泊3日のプログラム例では、美味しそうなご飯の画像を大きめにすることで、こういうご飯が食べられるんだ、と期待してもらえるようにしました。全体的にやわらかめというか固すぎない、あまりプレッシャーを感じず気軽に来てもらえる、全体的に丸みがあるチラシ作り、ホームページ作りを心掛けました。以上です。

【 (厚) 地域振興課 寺尾主査 】

受け入れの際は皆様にもご協力をいただくことがあるかもしれませんので、その際はご協力よろしくお願ひします。事務局からは以上です。

【 渡邊会長 】

この間、協力隊の募集について何回も検討委員会を開きながら、最終的に令和4年度は1名でいきましょう、その後にコロナの状況も含め、協力隊が活躍できる状況が整ったら実績を見ながら増やしていけば良いのではという結論になりました。ただ「たこ飯」作りの継承だけで起業する、大丈夫かなと思います。私の中では将来的には道の駅の中に商品開発部のような部門が出来て、そういうところに入っていくとかいろんな部分で地域おこし協力隊が地域に関わっていく、いろんな新しい商品が開発できたら素晴らしいなと思います。

まずは厚田の部分ということで、協議会の承認をいただければと思います。何か質問あれば遠慮なくどうぞ。

【 委員全体 】

特に意見、質問無し。

【 渡邊会長 】

では、地域おこし協力隊の募集要項については、承認ということでこのとおりに進めさせていただきます。

(2) 厚田区地域協議会の運営について(継続協議2)

資料2：第8回厚田区地域協議会 委員意見まとめ

【 渡邊会長 】

次に、厚田区地域協議会の運営についてです。前回皆さんからご意見をいただいたところですが、事務局である程度でまとめています。その辺を事務局からご説明願ひします。

【 (厚) 地域振興課 佐藤主査 】

前回の会議で皆様から出た意見を大枠でまとめたものになります。これを基にして本日継続協議していただければと思いますので、よろしくお願ひします。

～以下会議資料で項目ごとに説明

【 渡邊会長 】

たくさんのお意見を項目別に分けていただきました。全部を一度に話し合うことは出来ませんので、今日は移住定住に絞った協議にしたいと思います。どうしたらもっと厚田に来てくれるのか、こういうことがあれば良いんじゃないか、せっかく良い学校が出来たので、もっともっと人が来てくれると良いとか。私自身も思うところがありますが、本来であれば角野委員や東副会長など、実際に移住された方のお話を聞きたいのですが。

厚田区は別荘はどんどん増えています、結局は別荘なので、やっぱり移住してもらうためにはどうしたら良い

のか、皆さんから夢のような話でも結構なので、こうなれば良いと思うことをお話いただきたいと思います。

そういえば平賀委員も移住者ですね。もう何十年も経つのですっかり忘れていました。まずは移住の先輩でありまず平賀委員からお話いただき、その後順にお願いします。

【平賀委員】

例えば浜の方で仕事をしたりすることがありますが、札幌から通っている方が多いと思います。住むところ、例えば独身寮も数が限られていて入れない。やはりそういうところが増えれば厚田に住んでもらえるのではと思います。実際に札幌から通って浜で働いて、組合員になって厚田で独立して移住した方も二人います。その方も子どももいるので厚田学園にお世話になっているんだと思うのですが、住宅など住むところがあれば違うのかなと思います。後は働くところ、仕事する場所があれば違うのかなと思います。

【渡邊委員】

確かに漁師さんは若い方増えていますね。そういう方が厚田に住んでもらえるような。やはり独身の方が多いんでしょうか。

【平賀委員】

そうですね。

【渡邊委員】

それで上手くいけば、結婚して厚田に住むまでになれば良いですね。

【平賀委員】

その漁師の方も実際に家を買ったと思うんですね。住むところは漁師さんも悩みの種だと思います。朝早くから通うのは大変だと思います。

【大内委員】

こういう地域協議会などに関わって、今まで以上にテレビや新聞を見るようになったんですが、子どもを増やすとなった時に、ふるさと納税で、子どもの給食費や病院代、保育費を無料にして上手くいっている自治体もあると思うので、石狩市は浜益、厚田、石狩と地域が長いんですが、そういう取り組みがあれば良いなと思いました。

【石田委員】

今自分の息子が地元から離れていて、厚田に戻って住む気はないか、どうしたら戻って来れるかを聞いてみました。仕事は今車があるので通勤できるから何とかなる。でも結婚して子どもができれば、小中学校はスクールバスがあるけど、学生になったらバスの便が無いと。普通学で苦労したと言っていました。石狩まではあるけどその先（石狩市内から北側）がないので、歩いたことも結構あったそうで、石狩大橋からこちらまで何かで循環して来れるようになれば僕は考えるかなと言っていました。仕事とか家とかじゃなく、そういうことを考えてるんだと思いました。それだけ学生の時大変だったと小さい気付きですが分かりました。そういうことが解消されれば帰って来てくれるのかなと思いました。

【渡邊会長】

私の娘も朝一番のバスで通って、部活やったら石狩の八幡や花畔まで迎えに行くと親も大変でしたね。だか

ら中学卒業と同時に引っ越してしまう家庭もありますよね。そういう意味で交通は大きな課題ですね。

【村本委員】

自分が思うのは、仕事、交通、買い物ですね。車、免許を持っていないと。まちまで30分だから普通に車乗ってれば問題ないですけど、バスで通うのは遠いし本数も少ないというのがあります。仕事も人によって向き不向きがあるし、できればその人に合った仕事を選べる環境があれば良いと思いますが、それもちょっと難しい。自分が聞いた話だと、子どもに習い事させたいけど送り迎えをしないといけないし、自分も高校の時部活をやっていたんですが、5時半のバスが厚田行き最終便だったので、練習も満足にできない。札幌行きの最終便は夜遅くありますが、こちらに来る便はないので、その辺がなんとかできればもっともっと住みやすくなるのかなと思います。

【渡邊会長】

交通の部分はウエイトが大きいですね。今我々はみんな車があるから、ある程度の距離も慣れてはいますが、そうじゃない方々、学生とかお年寄りとか、車のない方にとっては切実ですね。

【笹谷委員】

私がコロナ禍の中で思ったのは、建設業、私も多少建設業やってますが、そこが人手不足なんです。だから石狩市としても、厚田としても移住定住してほしい、求めるものは人で一緒だと思うので、官民一体で何かできないかというのが一つ。あとは思い切って石狩市に頑張っていていただいて企業誘致しかない。コロナ禍で東京からニセコに本社を移転した企業があるのをニュースで見たんですが、企業に魅力を感じさせる、例えば土地ただとか建物ただとか何か魅力をつけて、企業が丸ごと来れば過疎化しているところは急激に変わると思います。交通の面でも結局人が少ないからまとまって行動することもないし、運営する側も仕事として成り立たなくなる。そうであれば大きく動ける何かがあれば改善できると思います。

今集落支援員のことをやらせていただいておりますが、例えば病院に行くのも一人一人の都合に合わせて、みんなが合わせて動かなければいけないのでいつか限界が来ると思います。人が少ないので巡回バスも難しい。

私が今お話しした中で一番やりたいのは企業誘致ですね。

【渡邊会長】

企業誘致は新港じゃなくて厚田区にということですね。素晴らしいですね。何かの企業が厚田に魅力を感じて来てくれば、それに伴って社員が来て働く場所が広がっていくことは確かにありますよね。素晴らしい意見だなと思いました。

【丸山委員】

厚田学園ですが、ランドデザインの柱、厚田学、厚田愛、思いやり協働性、確かな学力の元のコミュニケーション力ということで、子ども達かなり力をつけて来ました。今9年生は3人しかいませんが、石狩管内全中学校の中3の中で2番目の学力、平均点ということでかなり力をつけています。また、今年はコロナ禍の中でも笹谷さんのご協力でピザ作りしたり、あつたび旅行企画したり、やれることはやって来ましたが、まだまだコミュニティスクールについては浸透しきれていないと感じています。まだまだ学校でやれることはやっていきたいと思っています。

ちょっと苦言になりますが、厚田を3年間見ていて、まとまりが浜益に負けている部分もあるんじゃないかな、というのを感じています。漁師さんと農家さんの連携や朝市で売っているものを道の駅で地域の人と一緒に販売するすれば、もう少しまとまりができるのではと思います。今年、厚田学園の文化祭と厚田の地域の文化

祭、展示部門だけ一緒にできましたが、来年度は舞台部門も一緒にやって、子ども達と地域の人たちと川柳相撲をやったり、お昼のバザーを地域の人に手伝ってもらったり、虫の良い話ですが、厚田はこんなにまとまっているというのを内外に見せて、企業誘致にもつなげる、住むところも確保して、そうすれば厚田学園の子どもも増えると。

あと、職業体験を今年8年生2人やったんですけど、来年度は厚田の各店舗の応援をして、厚田愛に繋げるようにしたいと思います。厚田に3年いて一番悔しかったのは、厚田学園ができるにあたり特認校の願いを教育委員会にしたんですが、既に1校あるので難しいということでした。去年いしかり広報に厚田学園のコミュニティスクールの特集が出たとき、5件、6件の方から子どもを厚田学園に通わせたいという問い合わせもありました。交通の便がないから来れないということでお断りしたんですが、本当に厚田学園に来たいという子どもや親はいると思うので、もっともっと厚田をアピールして子どもも増やしたいし、活性化したいなと思います。朝市看板も子どもたちが登校する時に（壊れた看板を）見ていて、私に何とか直したいと言ってきて、子ども達の厚田愛が醸成されているのを感じていて、これからも厚田学園としてやれることはやりたいと思います。

【 渡邊会長 】

特認校二つはだめなのかと思ったり、来たいという子ども達に來させてあげられないのは何なんだ、というのはありますよね。看板についても、私達もいつも見ているはずですが気付かなくて素通りしてて、でも子ども達はしっかり見ている、こんなじゃだめだよということですね。子ども達ならではの素晴らしさですね。

【 鎌田委員 】

先ほど平賀委員の話にもありましたが、漁師の中でも若い方々、顔を見ても分からない人が結構いて、今空いている空き家や空き地を行政で何かしら助成できないものかと思います。あと企業誘致の話も出ましたが、厚田小学校や聚富小中学校の跡地もどちらかの企業が購入したと思いますが、どのような活動をしているのか見えない。見える形になればまた違う仕事も出て来るのかなと思っています。

また、東川や秩父別で人口が増えているということも耳にします。やはり（厚田の）本町の通りでも空き家空き地が増えておりますので、解消というか何かしらの取り組みができればと思いますね。

【 渡邊会長 】

本町は、昔はあれだけいろんなお店があって賑やかだったのに、今はシャッター街になっていて寂しいと思います。厚田区独自の補助制度ができるのか、厚田に来れば給食が無料になりますよとか、そういう独自の制度ですね。

【 八木沼委員 】

農家目線で話すと、単純に後継者がいなくて多分10年以内に辞める人達もいる。そうなるとういた土地を僕たちの世代が借りたり買ったりしてやっていくしかないと思っていて、それだと今の親世代と僕たちの流れと同じで、運よく息子が帰って来て何とか引き継ぐこともできますが、その間の隙間が埋めれないかなと思います。角野さんのように新しい人、農家をどんどん入れていける形ができれば良いなと思います。

【 渡邊会長 】

就農の人たちをいかに呼び込むか。石狩市の窓口もありますけど、高岡までは結構新しい人も入っているんですけど、どうしても厚田まで中々来ない。厚田は北石狩農協だし、石狩は石狩農協だし、行政的にもあるのかなと思ったりもしますが、とにかく来たい方にトライさせる場を用意することも必要かなと思いますね。

【 鎌田委員 】

ちょっとよろしいですか。今八木沼委員のご意見で、農家の後取りがないという話でしたが、地域おこし協力隊の制度も活用して、最初はお手伝いからなんでしょうけど、それから農業自体を好きになってくれて新規就農もつなげる。例えば漁業の手伝いから始まって組合員になって自分で船を持って漁師になったという方もおりますし、そういう思いを持っている人が来てくれるというのはどうなのでしょう。

また、私も年に何回か農家の手伝いに行くんですが、シカの被害が凄いですね。漁業であればトド被害とかでしょうけど、シカの被害も凄い。今は電気柵がありますけど、飛び越えて入ってきてたりもする。鉄砲とか罠とか、農協が主体にやるべきなのか判りませんが、こういうハンターの育成も必要だと思いますね。

【 渡邊会長 】

皆さんからご意見をいただきました。地域おこし協力隊については、今回は特産品継承の他に自由企画もありますので、厚田に来て農家をやりたいという方が来れば、そのような受け入れ態勢を整えるということになると思います。

移住定住については今日人数が少なかったので継続協議として、今回お休みされた方にもお話を聞きたいと思っています。

5. 報告事項

(1) おためし厚田区地域おこし協力隊の募集について

協議事項(1)で合わせて説明済

(2) その他

特になし

6. その他

【 渡邊会長 】

委員の皆さんから全体を通して何か確認ございませんか。なければ次回の日程について事務局からお願いいたします。

【 (厚) 地域振興課 高田課長 】

本来であれば今回は望みの予定ですが、協議会委員でもまだ厚田学園に入ったことがないという方もおりますので、厚田学園で会議を行い、リラックスタイムの時間は校舎内を見学し丸山委員や加藤委員から説明をいただきたいと思っております。日程は、1月27日木曜日17時00分からでご提案させていただきます。

【 全委員 】

了解。

7. 閉会

【 渡邊会長 】

新しい取り組みですが、例えば道の駅の2階でやれないかとか、いろいろと皆さんからもアイデアをいただきながら進めていきたいと思っています。本日はこれで終了いたします。お疲れ様でした。

○次回の日程について

令和4年1月27日(木) 17時00分～ 厚田学園3階多目的室

令和4年/月27日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 渡辺 教田